

会 議 名	第16回 まちづくりの勉強会
日 時	令和2年1月29日 午後7時30分～午後9時22分
内 容	<p>[テーマ] 高山の未来のための^{まち}都市づくり ～30年後(2050年)の高山、何を目指して生きるんや～</p> <p>[参加者] 市 民 22名 事務局 4名 計26名 (10代：0名 20代：2名 30代：8名 40代：9名 50代：6名 60代：1名 70代：0名)</p> <p>[勉強会の流れ] ① はじめに(5分) 進行：事務局 ② 第1回から第15回までの振り返り(13分) ③ 高山市都市基本計画の見直しの説明及び意見交換(90分) ④ おわりに(4分)</p> <p>[高山市都市基本計画について意見交換] 【グループ①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市マスタープランは、強制力のあるものではない。皆が同じ方向を向いて進めるように考え方を示すもの。 ・土地利用区分図の色分けは現状の状況からしても自然と受け止められた。市街地ばかりではなく田園や自然をどう守っていくかという視点があり評価できる。ただ、現在居住している場所が田園区域に区分されてしまう人々も出てくるので、「田園区域の中の住居区域」などの区分もつくったほうが納得してもらえないのではないか。 ⇒色分けもすべてを網羅しているというわけではない。また、色分けによって全部を守れるかというのも難しい。住居区域寄りの田園区域というものがあるのもよいと考えている。 ・ハザードマップと土地利用区分図を重ねると居住区域はさらに限定されてくると思うが？ ⇒ハザードマップは意識しているが、すべて考慮すると住むところがなくなってしまう。災害にどう備えるか？という視点も重要である。 ・30年後に田んぼを守っていけるかと考えると、どうにもならないと思うが、守るべきものを区分して明確にするのは良いと思う。 ・各地域の特性によるメリットやデメリットを打ち出し、メリハリをつけるべきだと思う。 例えば農業をするなら高根、ITで起業するなら清見など、市がそれぞれの特性をメリハリつけて示すと良い。 ⇒ある程度は色分けしているつもりであるが、うちの地域は何で生きていくというのをもっと打ち出していくことも必要である。平等がすべてというわけではない。 ・高山は所得が低い、家賃が高いということで、若い人が住むのには向いていないと思う。 また、若者向けの支援制度など知らない人も周りに多い。スマホ、SNSでの若者への情報発信力が弱いと思う。 ・仕事柄企業回りが多いが、求人を出しても若者が来ないという声をよく聞く。確かに高山の所得は低いかもしれないが、お金だけじゃない地元で働くということに対する意識付けを若い頃に行っていけば地元の定着率も上がっていくと思う。 ⇒若者活動拠点施設を来年度に向けて建設を進めている。若者に意識付けができるような仕掛けを考えていきたい。 ・働き方の多様化によって副業などで農業に携わりたいと考える人も増えてきていると思うので、農業に携わりやすい仕組みづくりが必要。 ・清見の三日町周辺に住んでいるが、夏厩などの遠方に住んでいる若い人が意外に多いと思う。そういう人たちが不便だからといって出て行ってしまふのは寂しい。バスの本数が増えれば良いと思う。 ⇒住民の方にはもっとバスに乗る工夫をしてもらわなければならない。車を持っているとすぐに車に頼ってしまうのが高山の現状である。利用率の向上を図らないと本数を増やすのは難しい現状である。 ・高齢者が住みやすい、かつ、観光客にも便利というように、病院や生活施設と観光名所を組み合わせ

せたバス経路にすることで利用者も増え本数も増やせるのではないか。京都市バスはオーバーツーリズムで大変そうだが、バス路線は生活経路と観光経路が混在している。

【グループ②】

- 土地利用区分について、観光区域を作ってもらえたら、地図上で見えてくるため、観光戦略を考えやすいのではないかと。
- 森林・山間区域については、原生林として残っている部分や植林されて変わっている部分を分けてもらおうとわかりやすく、いろんな産業に繋がっていくと思う。治山治水の面でも考えてほしい。
⇒森林整備計画にて、原生林として残す場所、自然環境のため、防災のために守っていく場所、木材を活用する場所、観光に活かす場所を色分けしている。ただ、所有者が見つからず、境界が引けず困難なところもある。
- すべての支所地域に、都市活動拠点としての地域拠点が設定されているが、どの程度の水準のサービスができるのか。
⇒言葉としては同じだが、拠点のイメージはそれぞれ異なる。過疎になるほど、その地域の中心部として拠点を位置付けておいたほうが良い。
- 今後地域に住んでいる人たちが町の方へ移り住んでいくと、地域の人の手によって守られてきた景観等が維持できなくなってくる。地域任せにせず、市全体でマンパワーを地域へ寄せて守っていくことも考えていくと良い。
- 人口が先細りする話ばかりになっているが、他市のまちづくりの方向性を勉強し、そこに割り込むような地域づくりの方針があってもいいのでは。例えば農業地域なら、地域資源の安心安全を宣言することで、水、土（微生物）などの研究機関やベンチャー企業を呼び込むことができ、さらに、若者が呼び込めると思う。
- 少子高齢化になる中、公共交通はもっと利便性が良くなれないか。現金以外の決済方法も検討してほしい。
⇒バスの便数、路線数を増やすことは、運転手が確保できない等、運行事業者の体制も含めて難しいところ。大きなバスではなく、小回りの利くような形などを考え、需要に対応できるようにしていきたい。決済方法についても検討していきたい。

[全体での感想]

- 都市基本計画というものを初めて知った。
- 地域に合った都市基本計画を立てるということは大事なことで、共感が持てた。その地域をどうやって活かしていくかは、それぞれの地域の人の意見を聞きながら、さらに細分化していけばいいと思った。
- バスの利便性や料金について、多くの意見が出たので、今後の参考にしてほしい。
- 地域の魅力が再発見できるイベント（スマホでのスタンプラリー、景勝地のカード収集など）を考えたら面白いと思った。

[まとめ]

- まちづくりの勉強会は今回で一旦区切りとする。
- 今後の勉強会のあり方等、市役所内部で検討する。